

エンゲージメント

考え方・方針

大塚グループは、自らの持続的な成長と、健康でサステナブルな社会の実現を果たすためには、従業員、顧客、ビジネスパートナー、社会、投資家・株主などさまざまなステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築が不可欠であると考えています。なかでも、環境に配慮した取り組みを推進するために、行政、省庁、自治体、業界団体などと連携を図り事業を通じた社会課題の解決を目指しています。

WEB ステークホルダーエンゲージメント

業界団体

大塚グループは、日本製薬工業協会や全国清涼飲料連合会をはじめとするさまざまな業界団体と協働し、公正な関係性の維持に努めながら、環境に関する共通課題に取り組んでいます。対話と協議を通じた相互理解を深め、業界全体の持続可能性の向上に向け、連携を図っています。

全国清涼飲料連合会

大塚グループの消費者向け製品で扱う容器包装プラスチックのうち、飲料のPETボトルはおよそ7割を占めています。そのため、PETボトルの資源循環に取り組むことは、企業の社会的責務と考えています。大塚製薬と大塚食品では、一般社団法人 全国清涼飲料連合会に会員企業として参加しています。なかでも大塚製薬は、本組織の常任理事を務め、PETボトルの資源循環システムである「ボトルtoボトル」の推進をはじめ、物流課題への取り組みなど業界の課題解決に向けて積極的に活動しています。

地域・社会

アグロエコロジー^{*1}の推進

欧州の健康食品のパイオニア企業であるニュートリション エ サンテ（以下、N&S）は、高品質な製品を将来にわたり安定供給するために、ビジネスパートナーと協働して生態系を活かした持続的な農業であるアグロエコロジーを積極的に推進しています。

近年、気候変動をはじめとした土壌環境の変化によって、欧州における土壌劣化が深刻な課題となっています。高品質な製品を安定供給するためには、原材料となる農産物の土壌の環境維持が不可欠です。そこでN&Sは製品の原材料である農産物に対して、農業協同組合、農家と三者間で持続可能なパートナーシップを2024年に締結し、高品質な原材料を確保しながら、土壌の

保全を通じた持続的な農業を推進しています。具体的には、化学肥料を減らすことで土壌の改善を促し、栄養価が高い原材料の確保を進めています。同社は農家に対する技術ならびに財政支援に加え、3年に渡るフォローアップを通じて、2030年までに本パートナーシップに準拠した方法による原材料調達の割合を60%以上にする（主要原材料である小麦と有機大豆は100%）を目標として活動しています。



三者間の協定式の様子

^{*1} 農地および周辺環境の、多様な種同士の相互作用を効果的に利用することで、化学農薬・肥料などに頼らず土壌の品質、植物の健康、作物の生産性を向上させる農業・農法。地域の環境に適した多様な（伝統）農法・在来知・小規模多品目生産の有効性を、科学的に実証していくこと

リジェネラティブ農業^{*2}の推進

リジェネラティブ農業（再生型農業）とは、土壌や環境の回復・改善を促しながら、栄養価の高い作物を育てる包括的な農業手法です。米国の自然植物由来サプリメントのパイオニア企業であるフーズタイトは、学術研究支援や、サプライヤー教育への投資、関連イニシアチブへの参加等を通じて、リジェネラティブ農業を推進しています。

例えば、本農法の導入が原材料の栄養素に与える影響を分析するために、抗酸化ポリフェノールが豊富で、フーズタイトの多くの人気製品に使用されている野菜「ビーツ」をアカデミアと共同研究しています。本研究では、栽培環境や加工方法が原材料の栄養素にどのような影響を与えるかを分析し、その結果をもとにリジェネラティブ農業の意義について情報発信していく予定です。

^{*2} 土壌の健康、水循環、生物多様性に焦点を当て、農場の生産性と収益性を向上させながら、農場全体の生態系の健康を改善することを目的とした農業アプローチ

